

令和7年度 第2回ふるさと大垣科推進委員会 会議録

- 1 **と き** 令和7年11月12日（水） 15:30～16:35
- 2 **と ころ** 大垣市役所6階 教育委員会室
- 3 **出席者** 山田敏弘委員長、杉本めぐみ委員、日比光治委員、古田潔香委員、伊藤誓哉委員、小見山麻衣委員、名和茂樹委員、長井克義委員
- 4 **事務局** 細江教育長、小倉学校教育課長、富田教育総合研究所長、鈴木文化振興課長、林学校教育課主幹、栗原主任指導主事
- 5 **傍聴者** なし
- 6 **議 題**
報告事項
(1) 今後の「ふるさと大垣科」について
議第1号
デジタルテキスト、こども歳時記「季寄せ」について
- 6 **会議の結果**
(1) **議題1号に関して**
① 「季寄せ」デザイン案について・・・・・・・・・・・・提案のとおり
・著作権だけでなく、俳句手帳作成者の心理的な問題も考慮し、確認する。
② 「季寄せ」の仕様について・・・・・・・・・・・・提案のとおり
- 7 **会議の経過**
・ふるさと大垣科推進委員会は、隔年開催の為、本会での報告したふるさと大垣科ま
とめの活動の実施の仕方や、「季寄せ」の掲載の仕方について、令和9年度に報告す
る。

開会 15:30

発言者	発言内容
委員長	はじめに、報告事項「今後の『ふるさと大垣科』について」説明をお願いします。
事務局	報告事項「今後の『ふるさと大垣科』について」 〈別紙資料に基づき説明〉
委員長	ご意見、ご質問はよろしいか。 それでは、 議案「デジタルテキストのこども歳時記『季寄せ』について」説明をお願いします。
事務局	議第 1号「デジタルテキストのこども歳時記『季寄せ』について」 (1) 「季寄せ」のデザイン案について (2) 「季寄せ」の仕様について 〈別紙資料に基づき説明〉
委員長	(1) 「季寄せ」のデザイン案について (2) 「季寄せ」の仕様について を分けて、ご意見を伺います。 まずはデザイン案に関して、印象や以前の季寄せと変わった点等々、実際に使うことを考えて、意見ををお願いします。
委員	最近のSNSでは、季節によって月の色が異なるということ、例えばストロベリームーンなどが話題になっており、子どもたちもそのようなことに詳しくなったりします。そのため、季寄せをカラーで出すのであれば、季節ごとに月の色を変えるなど、同じものであっても色を変えてもよいと思いました。
委員長	最近、そのような言葉をよく聞きますね。 そのあたりは、どう思われますか。
委員	秋の季語として、月は位置付いています。 あとは、色を付けて詠ませるかどうか、ですね。
委員長	まだ、ストロベリームーンというのは、季語にはなっていないところもあります。俳句の世界はわりと保守的な面もありますので、これから、時代が変わって季語になっていけば位置付く、ということになりますね。 基本、秋の月と言うと、私たちが普通イメージするような黄色みのかかった月ですが、夏の月もありますから、図案は事務局で工夫いただければ、と思います。

発言者	発言内容
委員長	ありがとうございます。他に、いかがでしょうか。
委員	<p>全体的にいい出来栄えだと思えます。</p> <p>ただ、2つ問題があります。</p> <p>1つ目に、例えば、春の「雀の子」「紅梅」、夏の「金魚」が軸の中に描かれています。こういった「描かれたもの」は季語としては非常に弱いですね。本来なら、本物を季語として扱います。ただ、描くところがないので、量か質か、というところで検討が必要ですね。</p> <p>教育総合研究所長はどう思われますか。</p>
教育総合研究所長	<p>目的として、俳句を作るための季語の在り方はあると思うのですが、たくさん書かれているということは、語彙が増えることにつながるので、小中学生にはよいことと捉えられると思います。</p> <p>よって、たくさんあった方がよいと思います。</p>
委員	<p>2つ目は、「蛤塚忌」と「芭蕉忌」があります。</p> <p>今、大垣市としては「蛤塚忌」を使っており、これは「芭蕉忌」の傍題として、加古宗也先生が載せて下さったものです。季寄せには旧暦の10月12日ということで、冬に掲載されていますが、大垣では「蛤塚忌」を新暦の10月12日に近い日曜日に開催しているので、実際には秋にしか使っていません。</p> <p>もしデジタルで注釈を出さないことになった場合は、このまま冬で掲載すると、子どもたちには伝わらないので、ちょっと心配です。</p>
委員長	<p>「蛤塚忌」は14ページの季寄せには冬に描かれています。18ページの脚注例には、秋として挙がっているようです。これに齟齬があるというか、それぞれに意見があるということなので、混乱するという気がします。ぜひ検討の上で、大垣らしいというところで俳句の総合編集の先生にご指導いただくのがよいのではないのでしょうか。</p>
事務局	では、他にいいでしょうか。
委員	<p>では、2点良いと思ったことです。</p> <p>1点目は、ぱっと見てかわいらしいな、という印象で、子どもたちもやってみようという気持ちになると思うので良いかと思えます。</p> <p>2点目は知らない言葉に触れるということで、以前の季寄せと同様、1場面あたり100はあって、1つの季節で200はあります。</p> <p>また、室内と言えは食べ物が掲載されているという認識で探せるので良いと思います。</p>

発言者	発言内容
	<p>考えたい所は、多々あります。</p> <p>1つ目は、子ども達にとってマイナスな言葉の掲載をやめたいです。例えば、「ビール」「酒」などです。また、自分が指導をするときには、「杉花粉」も扱っていませんでした。その辺りをどうするかということです。</p> <p>2つ目は、低学年には漢字が多すぎて分かりづらいと感じます。</p> <p>たとえば、「法連草」でも、「ほうれん」を平仮名、「草」を漢字にする方がいいのでは、と思いました。</p> <p>自分の記憶でいうと、子どもたちは、例えば「夏の室外の場面」で何を選んだかなと考えた時、季節の変わり目で感じる「夏の風」、そして「向日葵」「甲虫」、半ズボンになったから「衣替」、「汗」、「暑い」、「水鉄砲」といった身近に感じるものが選びやすかったので、そのイメージで季語が見つかるのがありがたいと思います。</p>
委員長	<p>小学生にとっては、ご指摘いただいた通りでございます。</p> <p>これは、一律に全ての学年が同じものを見るということになっていますが、小学生バージョンを作るということは難しいですか。</p>
事務局	<p>小学生と中学生とで教科書が分かれているので、可能です。</p> <p>現在の季寄せは、全ての学年に対応できるよう、ルビを振っており、小学生にも中学生にも対応できるようになっています。</p> <p>しかし、小学生対応としても、学年に幅があるので、例えば小学3年生を対象として、そこまで習っていない漢字については、平仮名にするというような形であれば、できると思います。</p>
委員長	<p>小学生向けという形をつくるのかは、議論があるとは思いますが、俳句の場合は、「あえて漢字で書く」というのもあります。</p> <p>例えば、日常生活の中で「みみず」を漢字で書く人はまずいないけれど、漢字で「蚯蚓」と書いたら、特定のニュアンスが出てくることがあります。「天道虫」もそうです。そういった、効果の問題もあるのかなと私自身も捉えております。その中で振り仮名というのも一つの選択肢で、漢字も「こんな字があるんだ」と興味をもってくれれば、国語の先生的には嬉しいかなと思ったりします。</p> <p>ただ、小学生がぎょぎょとしてしまっていて作りにくいと思うのは困りますね。季寄せが、低学年にとって、ぱっとひらがなが目に入り込んできて、「俳句っておもしろそう」と思える入口として機能するのであれば、記載の仕方を考えてみるべきかなと思います。</p>

発言者	発言内容
	「ビール」「酒」も、学校ではあまり触れないんですけど、どうですか。
委員	例えば、「お父さんがビールを飲んでいる」という俳句はよく出てきます。それは、自分の生活にはないけれども、家族との生活の中で目にするからです。「そのとき、お父さんの機嫌がよくなった」などと表現できるので、季寄せに掲載するのは特に問題はないと思います。
委員長	現場の先生がご指導いただけるのであれば、目で見て家族の様子を詠むという考え方もあると思います。
委員	中学校の生徒指導的な考え方で、「自分が飲んでいる」ものにならなければ、と思います。
委員	<p>ご家族や家庭生活に目を向ける、景色の中にそのようなことがあるというのは、よくあることです。一つの、目に見えるものをどう言葉に切り取るかと考えると、ありなのかなと考えます。</p> <p>私も新しいデザインは、見やすくて素敵だなと思います。</p> <p>レイアウト、フォントのサイズ等で、関連性のあるものに目がいくようになってきていると思います。一つの言葉を、似通った言葉や近い言葉に置き換えながら作品を作っていくという点で非常に参考になると思っています。</p> <p>あとは、仕様にもつながってくると思いますが、脚注は中学生にも必要だと感じます。むしろ脚注があるからこそ、分かった上でその季語を選ぶということもあると思いますので、説明が出るような仕様であると特に、大変ありがたいと思います。</p>
委員	サッカーやラグビーは冬の季語なんだな、と驚きました。
委員	年中やりますが、大会が冬にあるからなんですね。
委員長	脚注にとべるというのは、デジタルの強みで、いい使い方なのですが、子どもたちは、便利に検索できたものは、定着するものなのではないでしょうか。脚注、辞書機能などで検索したものは、保存ができたりするのでしょうか。
事務局	できないです。その都度調べて、別のところに書き込むという方法しかありません。
委員長	<p>手で書いた方が覚えることにつながるということもあると思います。単に読むだけでは定着しないのではないかという心配はありますので、ぜひ、指導をして頂ければと思います。</p> <p>今、仕様につながるということで、ご意見を頂きましたので、ぜひ幅</p>

発言者	発言内容
	広くご意見あれば、伺います。
委員	<p>編集委員の皆様が時間をかけて作っていただいたので、いいものができたと思います。「どんな漢字を書くのかな」とか、「どんな言葉を選んだらいいのかな」とか、子どもたちの視野が広がると感じます。</p> <p>新年のところに「七草」とあります。季寄せに春の七草はあるのですね。ただ、秋の七草は入っていません。自分がいつ覚えたか分からないのですが、学校で覚えた記憶があります。</p> <p>また、ささいなことですが、おがっきいが畳の上でも草履を履いています。デザインとして既にあるものをもってきているので、仕方がないのかな、と思いますが。</p>
委員長	これは、ちょちょいと修正ができるものですか。
事務局	おがっきいは、市のルールで草履を脱いだり、ものを持たせたりすることができません。「水饅頭」については、既に持っているデザインがありましたし、「マスク」についても着用しているデザインがありましたが、それ以外のものについては、そのようなデザインがありません。
委員	<p>時計ですが、夏までは秒針があるのですが、冬になったらありません。「時計が壊れたんだね」なんて言って、子どもたちは興味深く見ると思います。</p> <p>「七草」については、一般的に春の七草を季語として用います。しかし、秋の七草も「薄」くらいは入れておいてもいいと思います。</p> <p>歳時記で一番困るのは、なくなる季語、新しく生まれる季語が毎年どんどん変わっていくんですね。今、この季寄せに「マスク」は冬として掲載されていますが、一般的な歳時記からは一切消えました。コロナですね。生活によって季語が変わるということがあります。</p>
委員	<p>今後「熊」も消えそうですね。</p> <p>最近ニュースでよく見ますが、冬以外でも出るようになっていたので、子どもたちもおかしく思います。</p>
委員	季語になる経緯がいろいろあります。例えば、春に「ぶらんこ」があります。いつもあるのに「なんで春なの」ということになりますが、それは、中国の女官が春になって、縄をぶら下げてぶらんこで遊んだのがはじまりだからです。熊も「いつもいる」となりますね。
委員	それは、先生方のご指導にお願いするしかないですね。
委員長	では、さしあたって、「マスク」は消えたということなので、消しまし

発言者	発言内容
	<p>よう。</p> <p>掲載されている言葉は、全て検索ができるのですか。</p>
事務局	<p>はい。脚注については、こちらが設定したもののみしか出ませんが、辞書機能については、検索の設定をして、インターネットを使用できる環境下であれば、全て検索できます。</p>
委員	<p>これは、PDFと聞きましたので、例えば「櫟」がどこにあるのかを検索して、そのページにとぶということは可能ですか。</p>
事務局	<p>ちょっとそれは難しいですね</p>
委員長	<p>PDFならできると思います。</p>
事務局	<p>わかりました。</p> <p>教科書全体の仕様でそれができたかもしれませんが、今回は、新しく季寄せでできる仕様ということで紹介をさせていただきました。それに加えて、例えばマーカーを引いたり、メモを書いたりなども、季寄せでもできるかどうかは確認しておきます。</p>
委員	<p>細かく見ていて、「終戦の日」や「原爆の日」も書いてあって、素晴らしいと思うのですが、一応、「震災忌」も季語としてあると聞いたので、例えば「阪神淡路大震災」などもとても大きな出来事だったので、「原爆の日」と同様、掲載してはどうかと思います。</p>
委員長	<p>そうですね。子どもたちが関心をもつという点で、記憶も薄れていないものですし、入れるのもいいかもしれませんね。</p> <p>「この季節で知っているものがある」と拾いながら、今後の課題になってくるのかもしれないですね。</p>
委員	<p>予算について質問です。</p> <p>予算上、今年度は難しいということでしたが、来年度、再来年度、予算化する可能性というのは、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>現在提示をさせていただいたものについては、本年度の予算内で行える範囲になります。ただ、これから、複数ページにとぶようにすることになると、見積を頂いてから検討することになるので、早くても、2年後やそれ以降になり、かなりお時間を頂くことになります。</p>
委員	<p>イラストがやわらかく、かわいらしいと感じました。</p> <p>春のページにある「げんげ」については、子どもにとって使いやすい「れんげ」を振り仮名に併記して頂くことはできますか。それとも、「げんげ」で使った方がよいでしょうか。</p>

発言者	発言内容
委員	どちらでもいいです。
事務局	「れんげ」の併記はできます。
委員	夏の中に「キャンプ」とか、遊びや行事ものの言葉があるのですが、この酷暑のなか、キャンプをやることを避けて、冬にということもありますが、そういう場合は、夏として使わなくてもいいのでしょうか。
委員長	先ほどの意見と同じですね。 「マスク」が季節問わず使われることで変わっていくと補足していただきました。
委員	現在、季節がだんだんわからなくなってきました。 俳句の世界では、春夏秋冬をはっきり決めて、例えば、立冬が来れば、一応冬の季語として扱っていく。 それで、まだ暑さが残っていたとしたら、暑さは詠ってもいいけれど、季語は冬の季語を位置付けるというのが、俳句の世界ですね。 「季節の感触を味わう」、非常に難しい事ですけどね。
委員長	実際に感じる暑さと、季語の関係が変わっていくのかもしれませんがね。
委員	いろいろな所で言われているのは、句の中に二つ季語が出ていても「中心となる季語」がきちんと位置付いていれば、季語としては重ならず、「中心となる季語」について詠んでいることになります。 そういうことが増えてきました。
委員長	きちんと冬の季語が位置付いていれば、句の中に「キャンプ」が入っていてもよいということですね。勉強になりました。
学校教育課長	英語を覚える時に、文字と音だけではなかなか結び付かないことがあって、イラストや具体物と文字をつなげるという点では、分かりやすいと感じます。たくさんあると見にくいということもあるかもしれませんが、英語についても同じだと思いながら見させていただきました。
文化振興課長	3ページに回答として著作権のことが触れられていました。 デジタルを生かすなど工夫をして、今回進められていますが、まず、前提となるところでこういった部分をきちんと整理して進めていくべきだと思います。 私たち文化振興課では、俳句の振興ということで子どもたちも含めて、いろいろな活動を行っております。 第1回を欠席しておりますので、その辺りの議論を承知していないところもごさいますが、もともと俳句手帳の季寄せをベースに非常に寄った

発言者	発言内容
	<p>考え方で、それを発展させています。私たちの活動は、俳句手帳作成に関わった方々にお世話になり、これまで事業を展開してきた経緯もございますので、法的には問題はありませんが、大垣市の取組が批判されないように、心情的な部分をクリアした状態で進めていただきたいと思います。</p>
教育長	<p>文化振興課長が申し上げた通り、何の憂いもなく使用することが大切です。</p> <p>デジタル化し、いろいろな検索ができたり、広がっていったりするところもあるので、俳句手帳の季寄せとは違うというのはあるのだけれど、今までにお世話になった所もあるので、関係された方々のご理解を頂いて進めていくステップも必要かなと思っています。</p> <p>この季寄せについては、使えるようになったら皆さんのご意見を反映させてよいものにしていくのですが、皆さんの思いを全て反映していくのは難しいので、子どもたちが代表的なものを見ながら「他にあるかな」と歳時記に戻ってくるという営みがあってもいいのかなと思います。</p> <p>より子どもに身近で使える季語を掲載していくのだけれど、歳時記に戻ったり、広がったりする誘いになっていくということも必要だと思います。</p> <p>使えるようになるまでのステップを慎重に行っていくということと、使えるようになったら、より工夫をしていくということで進めていきたいのですが、了解を得るためには、時間がかかるので、事務局で丁寧に行っていこうと考えております。</p>
委員長	<p>大切なことだと思いますので、慎重にお願い致します。</p>
教育研究所長	<p>歳時記は季語なのですが、言葉に出会って、言葉の意味を知るというのは非常に大切だと思います。「この言葉を知ったので、使ってみたい」「使ってみたので、また違うものを使ってみる」など、往還するものなので、たくさんあることは良いと思います。著作の話があったが、蛤塚忌で入賞した子の作品が載っているとか、大垣市の児童生徒が作った作品が載っているとか、実際の俳句があるのもよいかと思います。</p>
委員長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>ご意見を踏まえて、よりよいデジタルテキストを充実させ、ふるさと大垣科をステップさせていかれることを期待しています。</p>

閉会 16:35